

ヘカテ

1982年度作品 1時間48分
 フランス・スイス合作 カラー作品
 LPA et TFI(パリ)、T&C(チューリッヒ)、
 SSR(ジュネーブ)共同製作
 ●ダニエル・シュミット 監督作品
 ●ベルナルド・ジロー・ローレン・ハットン
 ジャン・ブーズ/ジャン・ピエール・カルフォン
 ●ポール・モラン
 「ヘカテとその犬たち」より

HECATE

ダニエル・シュミット——人と作品

ダニエル・シュミット。

1941年、スイスのフリムスという山岳地方の村に生まれたこの映画作家は、わが国ではまだ馴染みがうすい。しかし、「今宵かざりは……」「ラ・パロマ」「天使の影」「ヴィオランタ」「カンヌ—映画通り」と一挙に五作品を上映する映画祭(アテネ・フランセ文化センター、スイス大使館共催)が開かれるにいたって、その評価は急速に高まってきた。

60年代初めに西ベルリンに渡り、ベルリン自由大学で文学、哲学、宗教史を学んだシュミットは、60年代後半の世界的規模での大学闘争に影響を与えた哲学者ヘルベルト・マルクーゼの講義も聞いているという。

ベルリン自由大学以来の親友ファスビンダー、フォルカー・シュレンドルフ、ヴェルナー・シュレーター、ヘルツォーク、ヴィム・ヴェンダースらとともに「ニュージャーマン・シネマ」の一員としてかぞえられるダニエル・シュミットは、しかし、その映像実践からみると、これらの映画作家たちとひとくくりにして論じることは無理であり、無意味であるように思われる。たしかに、ファスビンダーと、当時彼の妻だったイングリット・カーフェンとともに《タンゴ・フィルム》という独立プロをつくってはいるが、その作品は耽美主義的・神秘主義的であるより、むしろきわめて演劇性の強い知的退廃にあふれたものといったほうがいかもしれない。「ラ・パロマ」にしても「今宵かざりは……」にしても、けっして耽美主義をめざしたわけではない。むしろ装飾性が豊か、虚と実が劇的にちりばめられている世界といったほうがいい。その作品世界を処女作から振り返ってみよう。

「主人の蠟燭を節約するために、すべてを暗闇の中で行うこと」(70年)——ジョナサン・スウィフトの『奴隷訓』の一節をそのままとったこの作品は、主人と召使いの関係をテーマにしたもので、後の「今宵かざりは……」の下敷になっている。

「今宵かざりは……」(72年)——聖ヨハネ祭を祝うために、ボヘミアの貴族たちが、日没から夜中の12時まで召使いと立場を逆転させ、召使いのためにパーティを開くが、これに喝采を送ったのは貴族たちだけで、やがて12時を過ぎると元の主従関係に戻ってしまう。寓意性と極端な演劇性に富んだこの作品は賛否両論をひき起こし、「異端の作家」として

のシュミットの評価を決定づけた。

「ラ・パロマ」(74年)——歌姫パロマに心を寄せる青年の幻想を重厚なカメラ・ワークでパロディックに描いたこの作品は、いたるところに倒錯趣味をちりばめて独特の夢の世界を作りだしているという点で、もっともシュミット的な作品といえる。この作品は、カンヌ(批評家週間)をはじめ、ニューヨーク、ロンドン、ベルリン映画祭に出品され、フランス映画批評家による「今年のベストテン」作品の1本に選ばれている。

「天使の影」(76年)——82年6月に急逝した畏友ファスビンダーの脚本・主演によるこの作品は、ヒモや娼婦、ユダヤ人の富豪、元ファシストの女装歌手らがくりひろげるきわめてブレヒト的な世界だが、その主題とはかわりなく、「反ユダヤ主義」という見当はずれな攻撃を受け、パリの公開の際、上映妨害やファシズム論争をひき起こし話題を呼んだ。

「ヴィオランタ」(77年)——スイスの文豪C・F・マイヤーの原作(「女裁判官」)をルチア・ボーゼ、マリア・シュナイダー、ジュラール・ドバルデュの豪華な顔ぶれて映画化したもので、母権社会での兄と妹の近親相姦を描いた作品である。愛と不安というテーマをシュミット独自の世界に昇華させた幻想的イメージ豊かな作品。

「カンヌ—映画通り」(81年)——原題「ノートルダム・ド・ラ・クロワゼット」というこの作品は、81年のカンヌ映画祭そのものをドキュメンタリー風に描いたものだが、ドキュメンタリーともフィクションともつかないその映像の彼方に、現われてはつきつきと消えてゆく「現実」そのものの姿をとらえているように思われる。シュミットの作品がその根底にもつ幻想性、虚構性がこの作品にも脈打っている。

ここに収められている「ヘカテ」(82年)を含め、ダニエル・シュミットの作品は、このように装飾性、演劇性、見世物性、幻想性、神話性、怪奇性といった刺激的な要素がいたるところに盛りこまれている。これらは一見すると、軽さとかにせものといった表面的な評価を受けやすいが、じつはこの現実らしくなさこそが、本当らしい「現実」そのものの虚構を浮き彫りにするのである。「異端の作家」とか「パロック映画の鬼才」という呼称も、その文脈でこそ捉えられるべきだろう。



この作品は、劇場公開版(ビスタサイズ)を完全収録したものです。

製作/発売元・ヘラルド・エンタープライズ株式会社 販売元・パイオニア株式会社

© 1983 HERALD ENTERPRISE, INC. MANUFACTURED BY LASERDISC CORPORATION. DISTRIBUTED BY PIONEER ELECTRONIC CORPORATION, JAPAN. PRINTED IN JAPAN 国

●このレーザーディスクを、無断で複製、放送、上映、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。●ご使用後は、必ずプレーヤーからとり出し、ジャケットに納めてください。直射日光の当たる所、高温・多湿の場所には保管しないでください。●このレーザーディスクに、レコードスプレー、静電防止剤等は使用できません。よれた場合は、水を含ませた布でお拭きとりください。

¥7,800 FY056-24HD

スーパー
 カラー作品/日本語字幕
 長時間ディスク/CLV
 MONO(モノラル)



このマークは、光学式ビデオディスクの
 世界統一マークです。